

令和5年度 福井大学教育学部附属特別支援学校 スクールプラン

家庭との連携
一人一人の家庭生活の充実と生きる力（自立と社会参加）を育む教育の充実

地域への期待・インクルーシブ教育
多様な人たちが、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合っていく社会の実現

福井大学附属学園第4期中期目標・中期計画における附属学園スクールプランに基づいた教育実践の実現

〈本校の使命〉
○知的障害教育校としての使命
○教育実習校としての使命
○研究開発校としての使命
○教員研修校としての使命

〈本校の教育方針〉
一人一人に合わせた教育
小・中・高一貫した教育
関係機関と連携した教育
〈本校の教育目標〉

- 心身共に健やかな子を育てる
- 生活に必要な基礎的能力を養う
- はたらく喜びをもつ子を育てる

本校研究テーマ
「一人一人の学びが深まるカリキュラム・マネジメント」
(4年計画3年次)
～子どもを出発点とした学びをデザインする～

- ・「培いたい力」「キャリアプランニングマトリクス」等の指標整理
- ・子どもの実態やニーズに応じたねらいの設定と活動づくり（事例研究）
- ・子どもの学びを捉える実践記録の作成（個別プラン・研究紀要）

※8月…第44回福井県特別支援学校教育研究大会全体会(兼 公開研)の実施
※11月…全日本特別支援教育研究連盟全国大会プレ大会の実施

		1 教育課程・生活教育	2 生徒指導・保健教育	3 進路指導・キャリア教育	4 教育相談・センター的機能	5 地域交流	6 インクルーシブ教育	7 働き方改革
重点 目標		個のニーズと学びのつながりを意識した活動づくりを通して、教育課程を検討する。	児童生徒の実態に応じた安全教育・情報教育の充実を図る。 ・栄養教諭と連携し、食育を行う。 ・性に関する指導についての充実を図る。 ・「からころ教室」をニーズに合わせて実施し、内容の充実を図る。	段階的な進路指導・キャリア教育を推進する。 児童生徒・保護者の意思決定支援の充実を図る。	児童生徒の教育的ニーズに合わせて「おしゃべりタイム(心の相談会)」を実施し、内容の充実を図る。	交流相手との連携方法や内容を検討し、児童生徒が地域の人と直接、または間接的に関わる活動を実践する。	インクルーシブ教育における本校の役割について、教職員の共通理解を図る。	互いを思いやり、健康に働ける職場をつくる。
	全体	・大学の助言者と連携した児童生徒の学びがつながる活動づくり ・事例研究を通じた学部内・学部間のつながりの検討 ・子どもの育ちや学びを的確に捉えられるように個別プランの項立てや内容を検討する。 ・実践記録の形式検討	・避難訓練の様子や児童生徒の振り返りなどを載せたお便りの配布 ・小中高の学びの繰り上がりを意識した情報教育の実施 ・児童生徒の実態に応じた食育、保健教育(特に、性に関する指導)の実施 ・「からころ教室」を年15回以上実施する。実施後の記録や校医からの助言を、個々の教育活動に生かす。	・附属版キャリアプランニングマトリクスの活用と検討 ・キャリア教育や進路に関する事柄について保護者への情報発信(お便り、懇談等) ・事前事後学習などを通じた本人による主体的な実習・進路先決定(中・高等部)	・児童生徒個々の教育的ニーズに合わせた「おしゃべりタイム」の実施(一人1回以上、事前の保護者の意向聴取) ・実施後に記録や学部での報告を行い、個々の教育活動に生かす	・本校の教育活動と関連付けられた交流活動の内容や方法の検討 ・交流相手との連携方法や内容の検討(直接交流、オンライン、手紙、作品交流など)	・本校におけるインクルーシブ教育についての検討と学習会の実施	・職員同士が働きやすさを意識した声かけをし合う。 ・17:00以降は会議を設けない。 ・会議は90分を超えない。 ・超過勤務は、月40時間を超えない。
	小学部	・児童のニーズと小学部6年間の学びのつながりを意識した教育課程の検討 ・個の学びのひろがりを意識した個別プランの作成と活動づくり	・安全、清潔、疾病予防、情報機器の扱い方について、連絡帳や学部だより等を通じた保護者との情報共有 ・身辺自立を促す、食育、保健教育の実施 ・新入生に「からころ教室」を実施し、健康課題の把握を丁寧に行う	・キャリア発達を意識した実態の把握とねらいの設定に基づいた活動づくりと保護者への情報発信 ・小3組児童の高等部現場実習見学(校外学習)の実施	・「おしゃべりタイム」を一人1回程度実施し、遊び等を取り入れた教師と一対一で話しやすい雰囲気づくりを行う ・記録や報告を学部会や回覧で共有することで、児童理解を深める	・それぞれのニーズに応じて居住地校、附属学園、地域の学校との交流を実施 ・相手校園との情報共有や実態に応じた交流の在り方の工夫(オンライン、手紙、作品交流など)を丁寧に行う		
	中学部	・生徒のニーズと学びのつながりを意識した個別プランの作成と活動づくり、教育課程の検討	・安全教育について生活ノートや学部通信等を通じた家庭への発信 ・ニーズや実態に応じた情報機器活用のルール・マナー学習の実施 ・「からころ教室」記録を活用した健康課題や実態の把握 ・ニーズや実態に応じた、小グループや個別での保健教育、食育	・キャリア発達を意識した活動づくりと保護者への情報発信 ・事業所見学や体験実習報告会などを通し、生徒自身が主体的に進路を考えるための支援	・「おしゃべりタイム週間」を設定し、安心して話せる方法を工夫することで、一人1回以上、必要に応じて複数回実施 ・実施後の記録や回覧、報告を速やかに行き、生徒理解を深める	・教育活動を通じた居住地校、近隣の学校、施設等との交流の実施 ・互いのニーズについての情報共有や実態に応じた交流の在り方の工夫(オンライン、作品展示、販売など)		
高等部	・生徒のニーズと学びのつながり、及び卒業後の豊かな生活を意識した個別プランの作成と活動づくり、教育課程の検討	・生徒の実態に応じた避難訓練の事前、事後学習の実施と家庭への発信 ・情報機器の活用、危険性や安全な使用方法について定期的実施 ・生徒の実態に応じて「からころタイム」を定期的実施	・キャリア発達を意識した活動づくりと保護者への情報発信 ・様々な実習(学校実習、現場実習等)を通じた段階的な実習経験の積み上げ ・実習後の振り返り等、生徒自身が主体的に進路を考えるための支援	・「おしゃべりタイム」を一人1回以上、必要に応じて複数回実施する。(ニーズに合わせて他学部の教員や専門機関等の活用についても検討する) ・記録の回覧や学部会での報告など	・製作活動を通じた学校間交流の実施や、多様な方法での販売活動の実施 ・互いのニーズに応じた柔軟な交流方法での実施(オンライン、ビデオレター対面での交流など)			